

杉田文章：「問題解決とは何か」～余暇をめぐる問題と解決から考える～

オムニバスによる問題解決学総論の B クラスの第一回目として杉田教授がご登壇。第一回目ということで「問題解決とは何か」から話が始まる。以下、講義のポイントをまとめてみよう。

その第一歩として、問題と課題の違いについて理解することが大切だとのこと。基本的には「問題」を具体化して解くべきレベルに具体化したものを「課題」とする。(ただし「問題」と「課題」が逆に使われることもあるので、文脈によってどちらが具体化されたものであるかを確認すること)。この違いが重要なのは、「ある問題にダイレクトにアプローチできることは少ない」からである。したがって、「問題→課題」にし、そしてその課題を「解決する」というのが問題解決の流れだ、ということが説明された。以下は、その一例である。

<問題>

「がんに罹患する人がいること（病気の存在）」

「がんによって死亡する人がいること」

これらを解決すべきものに具体化すると、以下の「課題」になる。

<課題>

「がんのメカニズムを解明すること」

「がんに対する有効な措置や、予防措置などを確立すること」

これらの課題が解決されると以下のような状態になる。

<解決された状態>

「がんによって死なない対応（医療）を確立される」

つづいて、問題発見の話にすすむ。

当然のことであるが、問題解決を始めるためには、問題を発見することから始めなければならない。問題を発見しなければ、課題に具体化できないからである。では、どこに問題があるのだろうか。極論すれば、世の中は、すべて問題とその問題への解決でできていると見ることができる。つまり、どんなものにも問題解決力をつかう（が活かせる）場面があるということだ。

なお、問題解決をめぐる注意点があるとのこと。

たとえば、利便性が悪いからそれを解決しよう（利便性の向上）をすれば、人間力の低下という問題を引き起こすかもしれない。何かの問題を解決すると、他の問題を引き起こすことがある。そのほかにも、「ディズニーランドの成功が社会をディズニー化する（ディズニー化する社会）という問題を引き起こす」「競技性向上がスポーツマンシップを喪失させるという問題を引き起こす」といった感じである。

つまり、根本を見ていないと「似非問題解決」になる。課題ばかりを考えていると問題の本質を見失う可能性があることを覚えておいてほしい、とのこと。

さらに、覚えておいてほしいのは「ポジショントークに陥るな」という点とのこと。

ポジショントークとは、利害が対立する際に、自分の利になるポジション（自分の立場からのポジション）にこだわって話をするることである。このポジショントークをしている限り、問題は解決されない（しばしばパワーゲームになってしまう）。

このような視点で問題を考えていくと、問題解決力が身につくと締めくくられた。

<演習>

スポーツでルールが変わった事例を考えてみる。その変更が、だれがどんな目的のためにしたのか、つまりどんな問題があり、どう解決したいと考えたのかを考えてみること。